

準決勝の内容と決勝の見どころ

●ピン級

準決勝① 定廣(京都) vs 山下(福岡) [5-0 で定廣が勝利]

定廣(京都)は開始からステップを使い、右ジャブで相手との距離を図る。山下が前に出ようとする右フックでいなし距離を詰めさせない。山下は突破口を開くため右ボディで距離を詰めようとするが、定廣が終始距離をとり判定で勝利を収めた。

準決勝② 金谷(宮崎) vs 平井(石川) [5-0 で金谷が勝利]

試合の序盤は、サウスポー同士の距離を探り合う展開が続いた。そんな中でも、時折見せる金谷のワンツースタイルが平井のガードの隙間を刺す。平井も下がりながらも反撃するが、終始リングの中央で戦った金谷が勝者となった。

決勝戦 定廣 征季(京都府/京都廣学館) - 金谷 成留(宮崎県/日章学園)

サウスポー同士の両者。定廣は距離を取りながら戦うと思われる。対する金谷はいかに相手の距離をつぶしパンチを当てるか。両者の距離の取り合いが勝敗の鍵を握る。その内容は玄人好みの試合になると想像する。

●ライトフライ級

準決勝① 大木(静岡) vs 中山(福岡) [4-1 で大木が勝利]

終始先手を取っていたのは大木である。全体を通して大木の遠い距離から打つ鋭いワンツースタイルが効果的であった。中山も右ストレートのカウンターを当てて挽回するが一步及ばなかった。判定で大木が勝利した。

準決勝② 山口(大阪) vs 木村(兵庫) [3R RSC で山口が勝利]

木村は勢いある動きで果敢な攻めを見せるが、山口的確なジャブ、ストレートに阻まれ攻めきれない。山口は隙の無いボクシングを展開し、左ボディも効果的であった。山口が安定したボクシングで判定勝ちした。

決勝戦 大木 彪楽(静岡県/飛龍) - 山口 瑠(大阪府/興国高校)

大木が自分の距離をキープしながら攻撃を見出したい。山口は攻防一体である自分のスタイルを崩すことなく戦いたい。安定感ある山口のスタイルを、大木がどのように崩すのかが見所である。

●フライ級

準決勝① 吉良(奈良) vs 河本(福岡) [5-0 で吉良が勝利]

吉良は開始から冷静に右ストレートから左フックで襲いかかる。サウスポーの河本は距離を保ちたいが、吉良の踏み込みが早く対応が遅れてしまう。2Rには右ストレートを受けた河本にカウントが入る。3R、河本は距離を詰められながらも反撃を試みたが吉良の前に判定で敗れた。

準決勝② 小池(東京) vs 山下(宮崎) [0-5 で山下が勝利]

サウスポー同士の戦いはジャブの応酬が続いた。小池のジャブが打ち終わりのタイミングで、山下がワンツースタイルを決める。山下は終始先手をとり小池の打ち終わりにはパンチを返す。小池も勝機を見いだそうとパンチを繰り出すが、一步及ばず。山下が決勝に駒を進めた。

決勝戦 吉良 大弥(奈良県/王寺工業) - 山下 学人(宮崎県/日章学園)

1回戦から安定した戦いで勝ち進んできた吉良に対し、先手必勝的な攻撃で勝利してきた山下。経験豊富な吉良がインターハイも獲得するのか?山下が王者の吉良を攻略するのか?注目の戦いである。

●バンタム級

準決勝① 坂井(兵庫) vs 高橋(東京) [5-0 で坂井が勝利]

ここまでの戦いは自身の距離を支配してきた高橋であったが、激しい出入りを繰り返す坂井のスピードに対応できない場面が見られた。坂井は最後までフットワークを止めず、要所に有効打を決めて判定で勝利した。

準決勝② 中山(福岡) vs 浅井(大阪) [5-0 で中山が勝利]

浅井が動きながらも前に出て、中山は下がりながらカウンターを狙う展開となった。浅井はパンチも何度かヒットするが、有効打は中山の方が上回った。打っては離れのボクシングを最後まで実行した中山が判定で勝利した。

決勝戦 坂井 優太(兵庫県/西宮香風) - 中山 颯太(福岡県/東福岡)

運動量豊富な新鋭の坂井が、経験豊富な安定したボクシングを見せる中山を崩すことができるか?戦う距離や位置が重要であり、僅かなヒットで勝敗は決まるかもしれない。力はほぼ互角と見る。

● ライト級

準決勝① 本間(北海道) vs 宮崎(広島) [0-4 で宮崎が勝利]

手の内を知り尽くしている二人は頭をつけて乱打戦に終始した。2R、本間にホールドの減点が入ると流れは宮崎に傾いた。宮崎はパンチを上下に打ち分け僅かながらヒット数で上回った。判定は0-4であったが、ポイント差以上の接戦であった。

準決勝② 森貞(愛媛) vs 山川(宮崎) [0-5 で山川が勝利]

山川はゴング開始からリードパンチを上下に打ち分けポイントを奪う。森貞も負けじと前進するが、山川の巧みなディフェンスで有効打を奪えない。劣勢をはね返すため森貞も攻撃を強めるが単発で後が続かない。最後まで山川のペースが続き判定となった。

決勝戦 宮崎 栞 (広島県/崇徳) - 山川 健太 (宮崎県/日章学園)

宮崎が前に出て山川が迎え撃つ展開になることが予想される。距離が詰まって接近した戦いになれば宮崎であるが、山川の巧みなボディワークが見られれば山川が上と見る。自分のボクシングを出した方が勝利することになる。

● ライトウェルター級

準決勝① 六井(新潟) vs 松久(福岡) [1-4 で松久が勝利]

予想通り六井が左右に動き松久が追う展開となった。一進一退の攻防が続く中で、2Rに松久の右がヒットして六井が仰け反るとレフェリーからダウンが告げられた。その後、六井は持ち直しカウンターで反撃するが、力強い右を打ち続けた松久に軍配は上がった。

準決勝② 八木(福井) vs 大園(鹿児島) [2R RSC で大園が勝利]

お互い手数はあるものの有効打は少なく我慢の戦いとなった。八木は突破口を見出すため攻撃を強めるが、徐々に大園のパンチを受けるシーンが多くなる。2R一瞬の隙にパンチをまとめた大園が、計3度のスタンディングダウンを奪いRSC勝ちした。

決勝戦 松久 優作 (福岡県/東福岡) - 大園 丈太郎 (鹿児島県/鹿児島城西)

松久がどっしり構え大園が動きながらも攻撃に転じる展開になると想像する。両者ともパワーがあり一発で流れを変えることも考えられる。二人は九州大会で戦っており、その時は松久が判定で勝利した。今回はどうなるか…

● ウェルター

準決勝① 淵上(愛媛) vs 梶野(大阪) [0-5 で梶野が勝利]

開始から梶野がプレッシャーを掛けて攻撃に転じる。2Rには淵上の頭が低くなったことで減点が入る。3Rに入り、淵上は劣勢をはね返すため攻撃に転じるが、梶野は右を合わせてダウンを奪う。最後まで梶野の動きと攻撃は変わらず最終のゴングが鳴り、梶野が判定勝ちとなった。

準決勝② 和田(福井) vs 増田(新潟) [0-5 で増田が勝利]

サウスポー同士の対戦は増田が左を好打して主導権を取った。和田もリードパンチから左をヒットするが後が続かない。その後の打ち合いの中でも増田の左が目立った。最終回に互いの攻撃が強まり、激しい打ち合いとなったところで終了のゴングがなった。判定で増田が勝利した。

決勝戦 梶野 翔太 (大阪府/興国) - 増田 祐士 (新潟県/開志学園)

重い階級らしいパワー十分の戦いが予想される。両者とも手数が多くフットワークも使える。最後は意地がぶつかり合う激しい打ち合いになることが予想される。スピードと手数の梶野か?、パワーと技術を備えた増田か?注目したい。

● ミドル級

準決勝① 瀬井(宮崎) vs 市村(栃木) [5-0 で瀬井が勝利]

テクニックの瀬井とパワーの市村の激突である。1Rは市村の左ストレートがヒットし瀬井の動きが止まる。すぐに回復した瀬井はパンチまとめて有効打を奪う。以降も一進一退の攻防であったが、打ち終わりのヒットでポイントをあげた瀬井が勝利した。

準決勝② 川村(北海道) vs 羽賀(新潟) [2-3 で羽賀が勝利]

開始から互いに激しい打ち合いをする。川村が右ストレートをヒットすれば羽賀も右から左フックを再三にヒットさせた。以降も前に出る川村に右から左フックをヒットさせ羽賀がポイントを奪った。際どい判定で羽賀が勝利した。

決勝戦 瀬井 りゅう一 (宮崎県/日章学園) - 羽賀 勇二 (新潟県/新潟向陽)

テクニックがあり打ち終わりを狙う瀬井に対し、ロングレンジの右ストレートから左フックで攻める羽賀である。決勝は、今大会のメインイベントにふさわしい正々堂々とした戦いを期待したい。